

# 釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会

## 第 17 回 湿原学習のための学校支援ワーキンググループ

日時： 令和 5 年 7 月 28 日（金） 14：00～16：00

場所： 釧路地方合同庁舎 2 階 第四会議室

### ----- 議 事 次 第 -----

1. 開 会
2. 議 事
  - 1) ワーキンググループの取組報告
  - 2) 今後の取り組みについて
3. その他
4. 閉 会

### ----- 配布資料一覧 -----

#### ○第 17 回湿原学習のための学校支援ワーキンググループ 資料

- ・ 資料 1      ワーキンググループの取組報告
- ・ 資料 2      今後の取り組みについて

## 出席者名簿(敬称略・順不同)

### < 専門家 >

所属等	氏 名
再生普及小委員会委員長	高橋 忠一 ○
北海道教育大学釧路校 教授	境 智洋 ○

### < 学校教員 >

所属等	氏 名
釧路市立中央小学校	山本 翔太 ○
釧路市立新陽小学校	柴田 康吉 ○ 大澤 純平 ○
釧路町立別保小学校	田中 有香 ○ 平田 龍一郎 ○
釧路町立富原小学校	齋藤 真貴 武石 圭司 ○
標茶町立標茶小学校	中村 健一 ○
鶴居村立幌呂中学校	長谷 泰昌 ○

### < 学校教育行政機関等 >

機 関 名	氏 名
北海道教育庁釧路教育局 教育支援課 社会教育指導班	主査 角田 淳
釧路市教育委員会 学校教育部 教育支援課	指導主事 柴田 題寛 ○
釧路町教育委員会 教育部 指導主事室	室長 國井 彩子 ○
標茶町教育委員会 指導室	指導室長 富樫 慎也 ○
弟子屈町教育委員会 指導室	指導室長 武田 進一
鶴居村教育委員会 管理課 学校教育係	係長 清野 玲子
釧路湿原国立公園連絡協議会	事務局員 和田 強 ○ 事務局員 佐藤 英樹 ○
釧路市こども遊学館	事務局長 小笠原 忍 ○

### < 事務局 >

機 関 名	氏 名
環境省北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所	自然保護官 境 耕平 ○
公益財団法人北海道環境財団	企画事業部長 内山 到 ○ 企画事業課長 山本 泰志 ○ 企画事業課 安田 智子 ○

## ワーキンググループの取組報告

前回学校支援ワーキンググループ（令和5年1月開催）以降の取組みは以下のとおりです。

### 1. 釧路湿原流域環境を題材とした学びのプロセスの支援

年間を通じた授業づくりの支援を行うとともに、学校や施設と連携し、児童の取組みを地域に発信する場づくりを行いました。

○発表会のコーディネイト、発表への助言（令和4年度の取組み）

以下の学校において、専門家招聘のコーディネイトや児童の発表に対する助言を行いました。

- ・標茶町立標茶小学校 5年生授業参観での研究発表会

日程：令和5年2月16日

学校訪問：境教授（北海道教育大学）、松橋主事（釧路市環境保全課）、秋山室長（標茶町教育委員会）、山本・安田（北海道環境財団）

概要：ポスターセッション形式での発表の聴講、各発表に対する質疑・コメントバック、発表全体に対する総括のコメント



- ・釧路町立別保小学校 5年生研究発表会

日程：令和5年2月22日

学校訪問：境教授（北海道教育大学）、元岡課長補佐・松橋主事（釧路市環境保全課）、安田（北海道環境財団）

オンライン：山本（北海道環境財団）

概要：発表の聴講、発表全体に対する総括のコメント



○学外での発表の場づくり（令和4年度の取組み）

- ・釧路湿原サイエンスフェア（企画展示）の開催

施設および学校と共同で、研究発表ボードの企画展を開催し、多くの来館者に各児童の研究や学校の取組みをご覧いただきました。

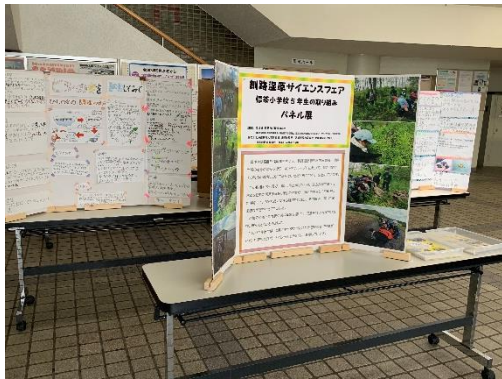
開催期間	実施場所	展示内容
2月2日～2月9日	釧路市役所	中央小学校5年生のボード10枚
2月2日～2月15日	温根内ビジターセンター	新陽小学校4年生のボード14枚
2月21日～2月27日	標茶町開発センター	標茶小学校5年生のボード12枚
3月3日～3月9日	釧路町役場	別保小学校5年生のボード10枚
3月18日～4月9日	釧路市こども遊学館	上記4校のボード 延べ40枚



釧路市役所



温根内ビジターセンター



標茶町開発センター



釧路町役場



釧路市こども遊学館

・ 釧路湿原サイエンスフェア 2023@釧路市こども遊学館

研究する楽しさ、人に伝える喜びを子どもたち自身に深めてもらうとともに、聴講する様々な方に、学校の取組みや釧路湿原に関心を持っていただく機会となることを目的として開催しました。



日程：令和 5 年 3 月 11 日（土）

場所：釧路市こども遊学館 1 階のつぼスタジアム

発表：中央小学校 5 年生 7 名、新陽小学校 4 年生 3 名、標茶小学校 5 年生 10 名、

野本学芸員（釧路市立博物館）、飯間獣医師（釧路市動物園）

審査：北海道教育大学 境教授、釧路市博物館 野本学芸員、釧路市動物園 飯間獣医師

概要：児童 20 名および専門家 2 名が発表し、各発表に対して専門家からコメントバック。全ての発表後、3 種の特別賞、参加賞を授与。

主催：釧路市こども遊学館 共催：釧路市立博物館、再生普及行動計画オフィス

協力：釧路市動物園 協賛：釧路信用金庫

○フィールド学習のコーディネイト（令和 5 年度の取組み）

以下の学校に対して、釧路湿原を題材としたフィールド学習のコーディネイトを行いました。

・ 釧路市立中央小学校 5 年生

訪問先：温根内木道

実施日：令和 5 年 7 月 7 日、9 月 28 日

案 内：温根内ビジターセンター藤原指導員

概 要：

（教員への情報提供）前年度の取組みの共有

（各種調整）講師との調整、担任教諭・講師を交えた 3 者でのプログラム内容の擦り合わせ

（フィールドでの対応）フィールド学習当日の補助



・ 釧路町立別保小学校 5 年生

訪問先：細岡展望台、釧路湿原駅、周辺フィールド

実施日：令和 5 年 7 月 11 日

解 説：環境省 石下自然保護官補佐（展望台、遊歩道でのレクチャーのみ対応）

概 要：

（教員への情報提供）前年度の取組みの共有、フィールドプログラムの提案、教員が担当する解説箇所に関する資料のとりまとめ・提供

（フィールドでの対応）フィールドの事前案内、機材等の貸与、フィールド学習当日の解説



・釧路町立富原小学校 4年生

訪問先：細岡展望台、釧路湿原駅、周辺フィールド

実施日：令和5年6月12日、14日

解説：環境省 石下自然保護官補佐  
北海道環境財団 山本

概要：

(教員への情報提供) WGの取組みの共有、フィールドプログラムの提案、教員が担当する解説箇所に関する資料のとりまとめ・提供、学習の進め方についての打合せ

(フィールドでの対応) フィールドの事前案内、機材等の貸与、フィールド学習当日の解説



・標茶町立標茶小学校 5年生

訪問先：達古武湖畔、夢が丘遊歩道、周辺フィールド

実施日：令和5年5月26日、9月1日

解説：崎川樹木医(木育マイスター)、塘路湖エコミュージアムセンター 高橋指導員、環境省石下自然保護官補佐、北海道環境財団 山本(4名が担当フィールドで解説対応)

概要：

(教員への情報提供) 前年度の取組みの共有、フィールドプログラムの提案、資料提供

(各種調整) 各講師との調整・フィールドでの擦り合わせ、施設との調整・教員への取り次ぎ

(フィールドでの対応) フィールドの事前案内、フィールド学習当日の解説



・鶴居村立下幌呂小学校 3・4年生

訪問先：下幌呂湿原再生事業地

実施日：令和5年6月23日、7月10日

解説：国土交通省 釧路開発建設部 治水課

概要：

(教員への情報提供) WGの取組みの共有、フィールドプログラムの提案、資料提供

(各種調整) 釧路開発建設部治水課との調整・教員への取り次ぎ

・鶴居村立幌呂中学校 1・2年生

訪問先：釧路湿原右岸堤防沿いの湿原(鶴居村温根内)

実施日：令和5年6月19日

解説：新庄 久志さん

概要：

(教員への情報提供) プログラム実施に当たっての手続き、とりまとめ方についての打合せ

(各種調整) 講師との調整、担任教諭・講師を交えた

3者でのプログラム内容の擦り合わせ

(フィールドでの対応) 講師・教員を交えたフィールドの事前踏査、資材の貸与、フィールド学習当日の補助



- ・北海道阿寒高校 1・2年生  
 訪問先：温根内ビジターセンター、温根内木道  
 実施日：令和5年7月21日  
 解説：環境省 境自然保護官、温根内ビジターセンター 藤原指導員  
 概要：  
 （各種調整）担任教諭・講師を交えた3者でのプログラム内容の擦り合わせ  
 （フィールドでの対応）フィールド学習当日の解説
  
- ・北海道釧路鶴野支援学校 高等部普通科1年生から3年生  
 訪問先：温根内ビジターセンター、温根内木道  
 実施日：令和5年8月23日、10月初旬（調整中）  
 解説：環境省 石下自然保護官補佐  
 概要：  
 （教員への情報提供）フィールドの提案  
 （フィールドでの対応）フィールドの事前案内、フィールド学習当日の解説

環境省釧路湿原野生生物保護センターに訪問した以下の学校に対して、対応を行いました。

- ・北海道釧路養護学校 中学部1年生  
 実施日：令和5年7月6日  
 解説：環境省 中野自然保護官補佐  
 概要：館内解説、質疑対応
  
- ・釧路町立昆布森中学校 中学1年生  
 実施日：令和5年7月11日  
 解説：猛禽類医学研究所 渡辺獣医師  
 概要：質疑対応

#### ○教員研修講座

釧路教育研究センターと共催で、以下の講座を行いました。

- ・希少野生生物の保護と脱炭素に向けた開発との共存を考える  
 実施日：令和5年7月27日 13時～16時  
 場所：環境省野生生物保護センター、太陽光発電施設（釧路市内1箇所、釧路町内1箇所）  
 講師：野本 和宏さん（釧路市立博物館 学芸員）  
 参加者：釧路管内の幼稚園、保育園、義務教育学校、小学校、中学校、高等学校、教員32名  
 概要：センターでの座学後、太陽光発電施設を訪問し、各フィールドで確認されている希少野生生物、施設建設による影響等について説明を受けるとともに、野生生物保護と脱炭素に向けた開発との共存の在り方について議論を行いました。

## 2. 地域と連携した取組みの普及に向けて

令和4年度までは、新型コロナウイルス感染拡大防止の視点も踏まえて、学校支援WGの事務局が主体となり学習に関わってきましたが、持続性、取組みの普及の点から課題が見えてきました。

令和5年度からは、学校と地域の多様な主体を事務局がつなぎ、学習支援に関する連携の輪を広げていくために、協力いただける主体との調整を進めています。

年間の学習と地域主体の関わり（例）

時期	取組み	内容	地域の主体の関わり
5月	【湿原に出会う】 フィールド学習（1回目）	児童の興味関心を育む様々なものに出会う、触れる	事前下見、擦り合わせ、当日の解説
6・7月	【みつめる】 調べ学習、課題設定	興味を持ったことを調べ、疑問を課題として絞っていく	
8月	【深める】 フィールド学習（2回目）	各児童の課題に応じて、フィールドでの観察、試料採集等を行う。	事前下見、擦り合わせ、当日の解説
9月～	【深める】 課題解決に向けた実験、観察、体験等々	確かめる、比較する、発見するなどの活動を通して課題解決に取り組む。	
	【視点を補強する】 外部講師とのコミュニケーション	外部講師から課題解決に向けた考え方、調べ方の視点を得る（答えはもらわない）	考え方、調べ方等の助言
2月	【伝える】 研究発表会（学内）	児童、保護者、外部講師に発表、質疑対応	まとめ方、伝え方等の助言
2月～	【地域に伝える】 施設展示、研究発表会	多様な主体協力の元で、企画展示、研究発表会の実施	企画展示、研究発表会への協力

個別の状況による判断となりますが、以下の主体から協力的な回答をいただいています。

（順不同）

- ・国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 治水課
- ・林野庁 北海道森林管理局 釧路湿原森林ふれあい推進センター
- ・釧路市動物園
- ・釧路市立博物館
- ・釧路湿原国立公園連絡協議会
- ・（公財）日本鳥類保護連盟釧路支部
- ・釧路市こども遊学館
- ・標茶町図書館
- ・釧路市教育委員会マリモ研究室



## 今後の取組みについて

### 1. 前回ワーキンググループにおける議論

#### ○ワーキンググループの設置目的

総合学習や教科学習等、学校教育を通じた湿原の活用に向けて、効果的な支援方策の検討、取組みの実践を行い、その成果を踏まえて、流域の学校における普及方策を検討する。

#### ○取組みの成果

- ・学校教育の中で湿原を扱う価値がはっきり見えてきた。
- ・子どもたちの知りたい、調べてみたい、やってみたいことを実現出来る場所が湿原にはあり、様々な探求のプロセスを踏みながらそれぞれの課題を自己解決していく姿が出てきた。
- ・自分で新しい課題を見つけ関わっていくための素材が湿原には多くあり、先生もわからないことが沢山ある。そこがこれからの教育、学びの一つポイントになる。子どもたちは湿原を活用することによって探求的な力をつけていくことが出来る。

#### ○今後の方向性に係る委員からの意見

- ・様々な立場や視点での関わりが出てきており、各者の役割の明確化や、各取組を大きく括った網羅的な整理をする時期にきている。
- ・学校だけで動かすことが難しい内容については、教育委員会からの支援や評価も学校の取組の後押しになる。
- ・支援を受けている学校では探求学習が充実してきた一方、学校の取組として意識化していく必要がある。
- ・故郷教育、学校が行う湿原学習、教科学習が、学校計画の中で結びついていかなければならない。詳しい先生がいなくなっても計画の中でやっていくということが重要。
- ・子どもたちの成果をアピールする場を持つことは価値づけとして非常に大切で、合わせてWGの取組の発信も必要。
- ・裾野を広げるとともに、必要な時に必要な支援が出来る組織であってほしい。
- ・体験を土台として探求する力を身に付けさせたいという部分は共通理解としたい。
- ・フィールドに入るための環境省からの許可と安全性の確保、専門家とつながるための窓口の設置、年2回の教員研修の開催を環境省と教育委員会にお願いしたい。
- ・現在の取組にコミットする学校が増えれば、学校間で連携することもできる。
- ・将来的に学校や湿原教育を支えるシステムをきちんと作った方が良い。学校の意見を聞きながら講師の配分や教材の共有が出来、学校の年間の活動内容が見えてくる。
- ・今後は釧路サイエンスフェアという形で出来れば、釧路全体の子どもたちの発表の場というもの出来るかもしれない。子どもたちの探求の力を付けていくという大きな前提を持って出来れば良い。北海道には発表の場はなく、それが釧路から始まるということは意味がある。

## 2. 学校支援 WG としての方向性(提案)

### ○論点

- ・探求学習の題材としての釧路湿原の活用（＝これまでの取組みの成果）を普及していくには、どのようなシステムが必要か。
- ・様々な制約がある中で、地域への定着を見据えた取組みとしていくには。

### ○方向性（案）

求められる役割（※）を担う地域主体間で「学校支援ネットワーク」を形成。

→学校（教員）と「学校支援ネットワーク」との連携により、地域への普及および定着を図る。

### ※求められる役割

- ・地域の様々な主体と学校、主体間、学校間をつなぐコーディネーターとしての役割
- ・湿原を題材とした授業づくりに関する情報提供、提案を行う相談窓口としての役割
- ・先生方が地域や湿原に触れ、湿原の価値を感じる機会づくりを行う役割
- ・フィールドの活用に係る国立公園管理者としての役割
- ・フィールドでの解説や発表への助言、学外での発表の機会づくり等に主体的に関わる地域主体としての役割